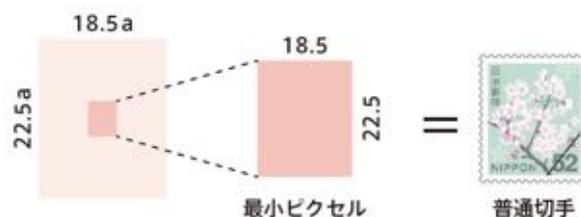


日本郵政 本社オフィス 応接室

企業イメージの1つである「切手」をサイングラフィックとして、空間全体に設えた。

オリジナルグラフィックに変換した切手を応接室天井面に配置。鮮やかに彩られた天井面が来客者を迎え入れる。また天井面は外部からも視認することができ、街に対して企業の存在感を示すサインとしても機能している。

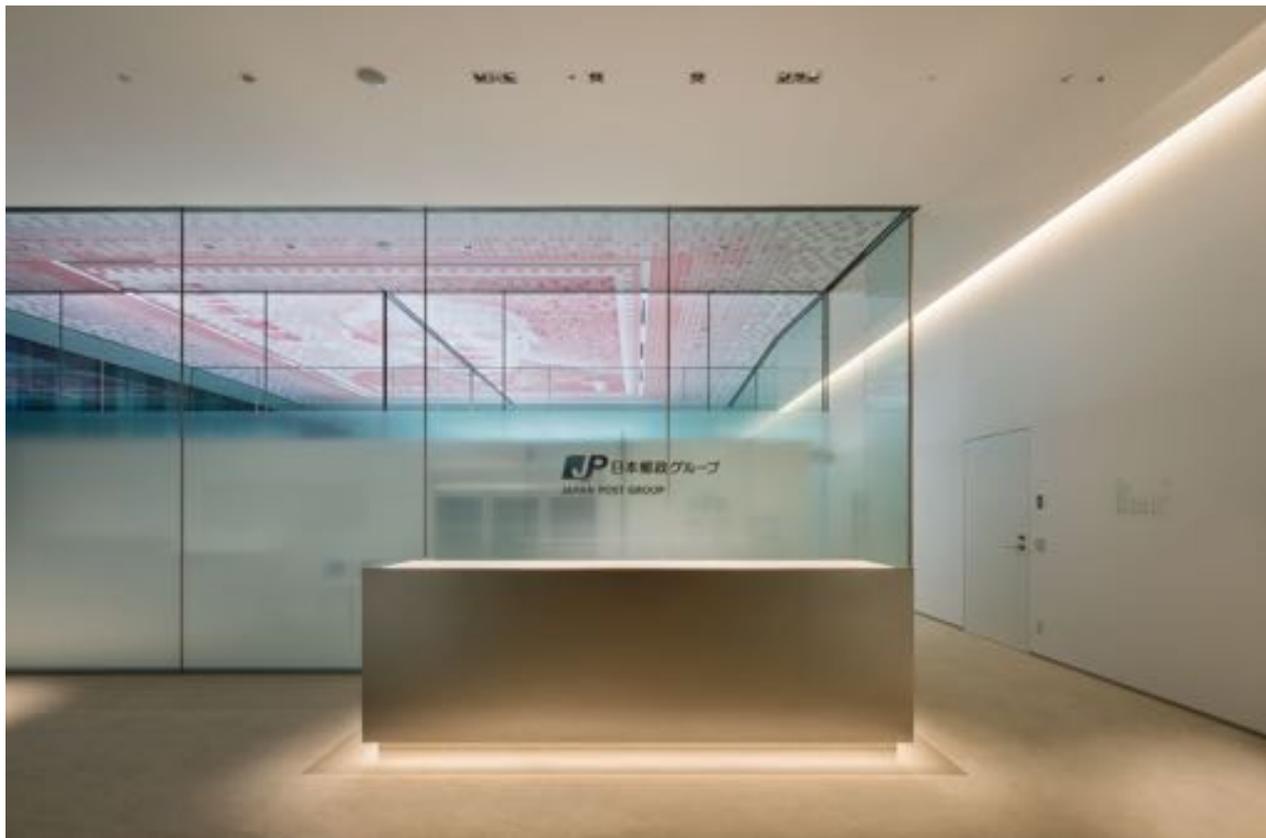
グラフィックは全て切手と同じ比率のピクセルを使用して抽象的に表現し、視距離に応じた見え方を意識した。



- 所在地 : 東京都千代田区大手町
 完成年月 : 2018年8月
 ディレクション : 日本郵政不動産 齋藤隆司
 デザイン : テラダデザイン一級建築士事務所 平手健一
 空間設計 : 日本設計 崎山茂、大坪泰、田口富英、讃井章
 渡邊順一 (元社員)、本間行人、丸山義貴
 照明デザイン : YAMAGIWA 土井智子
 施工 : 竹中工務店、びこう社
 撮影 : 川澄・小林研二写真事務所 (写真: K)
 大森有起 (写真: O)

応接室ロビーに入ると、天井面に描かれた象徴的なオリジナルグラフィックが現れる。

応接室は3つのエリアで構成される。3つのエリアの天井面には各々絵柄の異なる切手が、日本郵政グループの企業カラーである赤・青・緑の3色でそれぞれ彩られている。



K

まえ しま ひそか
前島 密



K

つき かり
月に雁



0

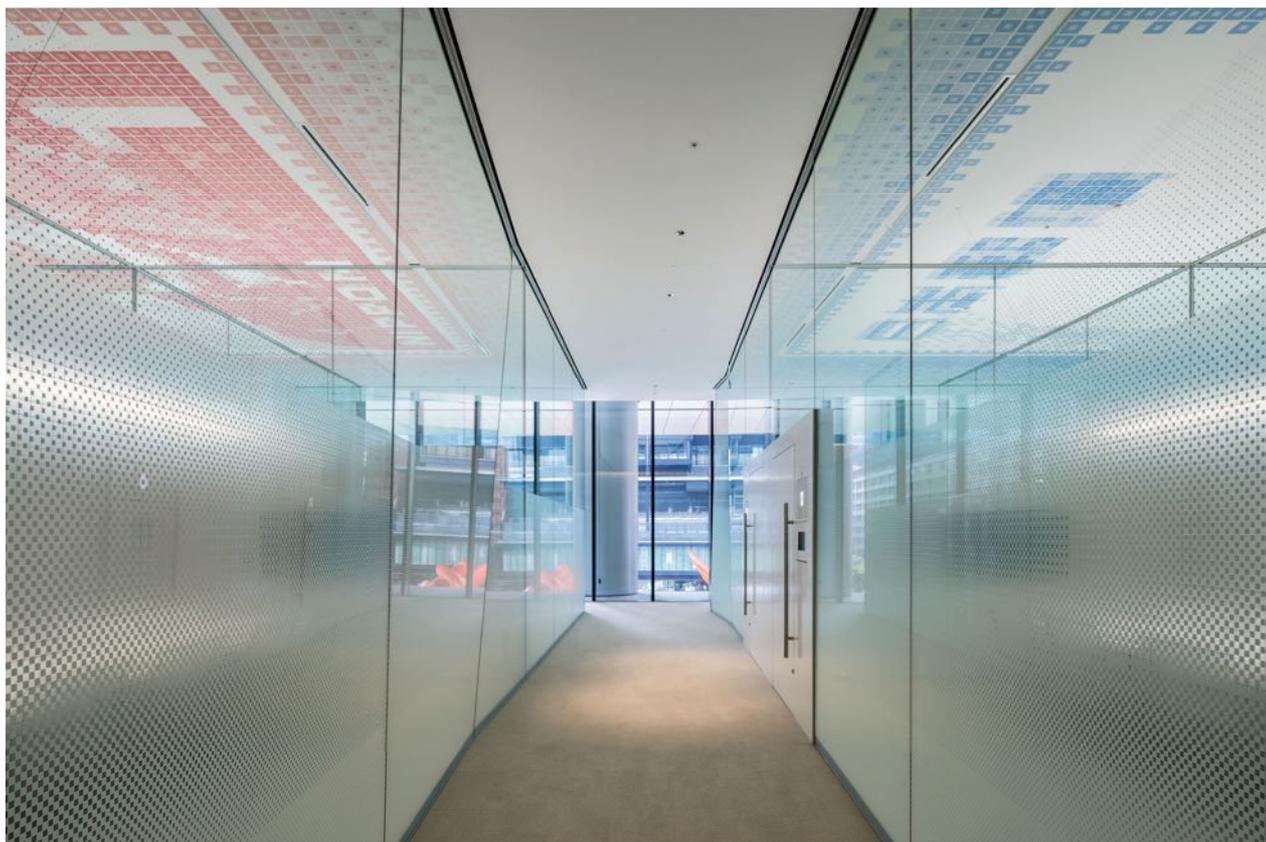
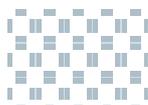
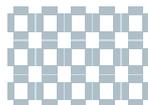
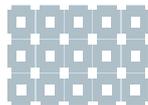
み かせ び じん
見返り美人



K

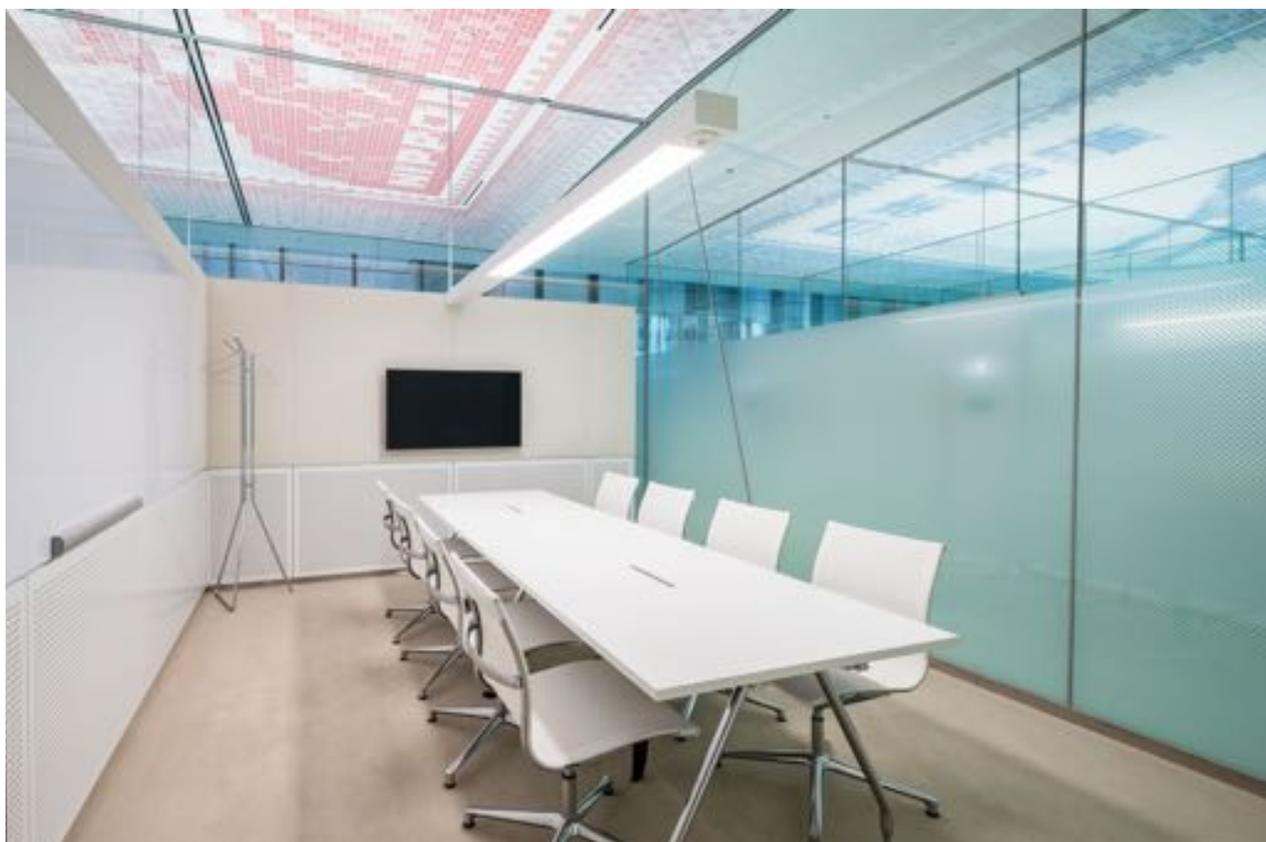
会議中の様子が見えないよう、目隠しグラフィックを配置。切手プロポーションの白いピクセルグラデーションがガラス面に広がる。

目隠しグラデーション
グラフィック



K

界壁上部を透明ガラスにすることで、空間を仕切りながらグラフィックの連続性を保つ。



K

応接室名には実在する切手の名称を採用。さらに各入り口には室名となった実物の切手を配置し、バックライト式の表札とした。

表札は天井面の切手グラフィックのピクセルと同一形状とし、空間全体の調和を図った。



II

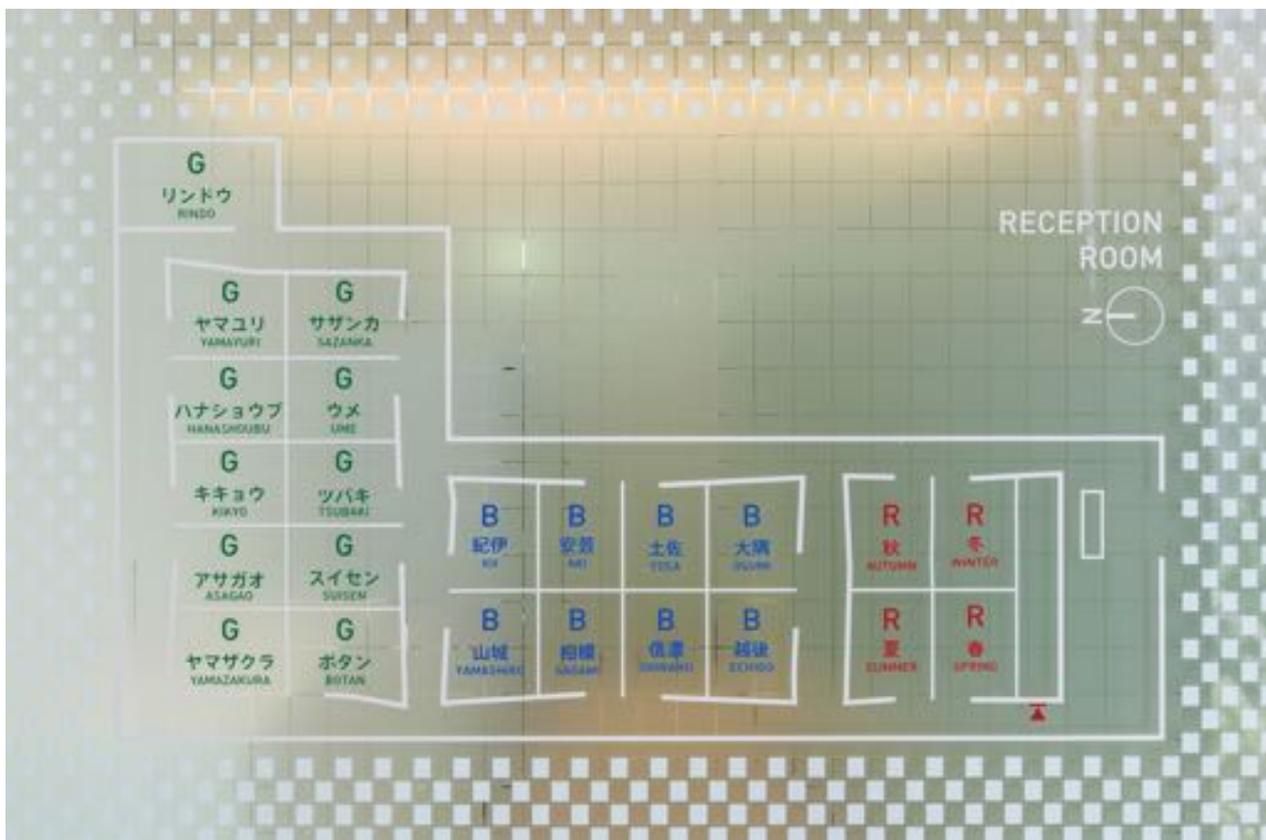


O



K

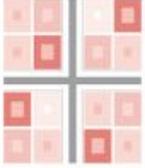
ガラス面の目隠しグラフィックに溶け込む案内図。



K

ガラスの間仕切りに
よってピクセルが途
切れないう、グラ
フィックを配置した。

ガラス間仕切り



O

各設備機器や消防機
器とグラフィックの
位置を精緻に調整し、
美観を損なわないよ
う配慮した。

空調機器



1ドット

スピーカー

(180φ)



感知器

(85φ)



非常用照明

(72φ)



スプリンクラー

(60φ)



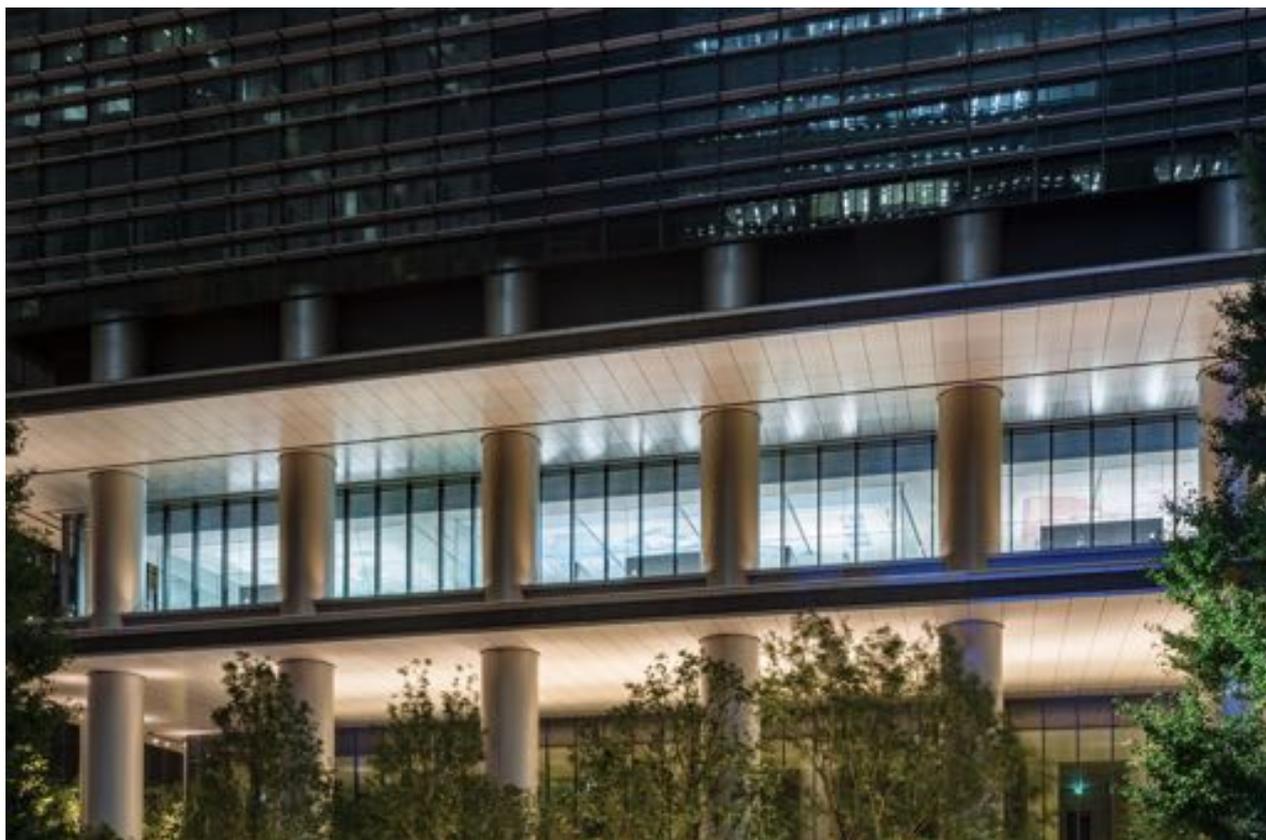
特注照明

天井吊りワイヤー



K

夜間には、切手のグラフィックが応接室内のアップライトによって照らされることで鮮やかに発光し、フロア全体を外部から視認できる。



フロア全体に描かれた切手のグラフィックが、大手町のオフィス街をやわらかく彩る。

